浅羽工場

所　在　地：静岡県袋井市
面　　積：27,000m²
主要生産品目：ファイン、健康食品

工場データ

CO_2 排出量	2,315 t-CO_2/年
廃棄物発生量	301 t/年
再資源化率	96.5 %

活動内容

浅羽工場は、健康食品事業の主力工場であり、遠州灘に面し自然に恵まれた環境の工場です。

この立地の中で、環境面での取り組みに力を入れています。従来よりトコフェロール精製による廃棄物を燃料として重油と混焼していましたが、CO_2 排出量削減対策として、2007年度より社内の他工場で発生する廃植物油を燃料として利用するべく、設備を導入しました。これにより、年間の重油使用量を2007年度比 25％削減を2008年度中に達成したいと考えています。

また、当工場の主要生産品である「大豆イソフラボン」の製造から派生する画分より、新たな付加価値商品を製造·販売する計画となっていて、廃棄物からの有用品回収による廃棄物の削減にも取り組んでいます。

日華油脂株式会社若松工場

所　在　地：福岡県北九州市若松区
面　　積：50,370m²
主要生産品目：食用油脂、油糧、大豆蛋白

工場データ

CO_2 排出量	12,480 t-CO_2/年
廃棄物発生量	3,205 t/年
再資源化率	96.4 %

活動内容

日華油脂㈱は大正６年に創業し、製油業の草分けとして植物油脂の製造·加工に取り組んできました。若松工場は大豆·菜種原料を搾油·精製し、さらに充填·出荷する一貫工場であり、また、大豆蛋白製品の製造も行っています。

そして、九州地区の拠点たるべく優れた品質の製品を供給しています。

工場は北九州市の若松にあって洞海湾に面しなだらかに広がる山々を背景に自然に恵まれた環境に立地しています。また、近隣の臨海埋め立て地に広大な敷地を誇る北九州エコタウンが展開されていて、風力発電、家電をはじめとする各種リサイクル施設、大学などの研究機関が設置され、先端的活動が始まっています。当社もエコタウンに沿った国道沿いの若松コスモス街道育成ボランティアに参加するなど、地域との関係も一層深めていきたいと考えています。

第三者コメント

東京大学東洋文化研究所教授
長澤 栄治

世界的な食糧価格の継続的高騰など事業環境の悪化が懸念され、また食品の安全性に対する社会的関心が高まっている現在、食糧自給率の低い日本において安定的に原料を調達し、安全な製品の供給に努めることは食品メーカーの最大の社会的責任である。

以上の点を踏まえて「ＣＳＲ報告書 2008」の特集に掲げられた「ＳＨＥ」、すなわち①安全·安心 (Safety)、②健康 (Health)、③環境 (Environment) の３点を中心に第三者意見を述べたい。

１．安全·安心な植物油の提供

食品メーカーにとって最重要の社会的責任である安全性の確保について、報告書では開発企画から物流にいたる各担当部門の取り組みの内容を具体的に説明している。特に生産部門では複雑な生産の各工程がフローチャートで分かりやすく解説されている。また、製造規格を厳守した管理体制、事前アセスメント、定期的検査、製品トレーサビリティシステムについてもていねいに紹介されていて安心を実感できた。

佐々木社長のトップコミットメントでは、2008年度の２つの重点目標の１つとしても、「安全品質·安全生産の徹底追求」が挙げられ、会社の運営方針として「現場が力強く主体的に活動する」ことの重要性が指摘されているが、安全性をめぐる問題はまさにこうした現場重視主義が具体的に機能する分野である。

２．健康な食生活のために

消費者サイドの健康意識の高まりに対応した商品開発に努めている様子がイラストや図表によって分かりやすく説明されている。製品の健康面への配慮に関する知識を積極的に啓蒙·普及することは、新商品の販売促進の手段であるのみならず、食品メーカーとしての社会的責任の一部である。このような認識に立って、たとえば地域における各種学習支援の検討など今後の活動に期待したい。

３．環境に配慮した商品開発

環境対策は、生産者としてきめの細かい工夫の日常的な積み重ねが不可欠な分野である。この点について報告書から消費者の環境意識の高まりに対応した商品開発を企業戦略の重要な柱として位置づけて積極的に取り組む同社の姿勢を読み取ることができた。

具体的に例として示されているエコパウチなど容器改良への取り組みにも注目したい。また環境負荷、物流面での省エネの努力、廃棄物削減や汚染防止についても具体的な数値を示した説明がなされている。

最後に、全体を通して言えることであるが、激変する外部環境に迅速に対応するためには、報告書で述べられているようにステークホルダーの「生」の声をたえず重視する姿勢が何よりも必要である。加えて上記の目的のためには、透明性の確保も重要であり、その点で労働災害データなどのネガティブデータを開示していることは評価できる。

日本社会において、リスクマネジメントは企業の体力を測る物差しの１つとなっている。報告書ではリスクを８種類に分類し、潜在リスクのチェック体制についても説明している。近年の厳しい事業環境の背景となっている今日の世界の自然や政治·経済面など様々なリスクに対して瞬時に対応できる企業体力を涵養するためには、緊張感を社内でたえず維持するコンプライアンス体制の整備·向上が必要不可欠である。ここにおいても上述の運営方針に示された現場重視の姿勢が貫徹されることが求められる。

J-OIL MILLS

ダイナミックで躍動感に富む「J」のフォルムは、企業活動の創造性と活力を象徴し、「J」から産みだされた球体は、J-オイルミルズがお客様に提供する、健康で歓びに満ちた新しい食生活を象徴しています。

また「J」を囲む２つの半円は、OIL MILLS の頭文字「O」を表すとともに、日本発のグローバル企業を目指すJ-オイルミルズとお客様、お取引先様、株主の皆様との強い絆を表しています。

JAPAN
「日本」を代表し、世界に通用する製油メーカーを目指すこと

JOIN
お客様、お取引先様、株主の皆様や、社会·環境との**結び付き**を大切にすること

JOY
お客様に**よろこんでいただける**商品とサービスを提供し続けること

JUMP
気持ちを新たに、**飛躍**を目指すこと